平成２４年度

静岡県委託事業／一人でも安心して暮らせる地域づくり事業

今、あらためて“家族の実像” に迫る

私にとって、家族ってなに？

意 識 と 実 態 調 査 報 告 書

静岡福祉文化を考える会

平成２４年度・静岡県委託事業・一人でも安心して暮らせる地域づくり事業

今、あらためて“家族の実像” に迫る 私にとって、家族ってなに？
意　識　と　実　態　調　査　報　告　書

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞目　　次　∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

はじめに　「長寿者の自立」から「真の居場所」への道程

第１章　調査の概要

1　調査実施意図
2　調査方法と調査日
3　調査票の形式及び調査項目
4　調査対象と調査票の発送
5　調査実施機関
6　調査協力
7　回収状況

第２章　サンプル構成／基本属性

1　性別
2　世代別
3　職業別
4　地域別
5　居住別
6　居住歴別
7　地域形態別
8　居住形態別

第３章　調査結果

1　基本属性
2　生活者個々の家庭生活状況
3　生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識
4　生活圏域における生活者と地域社会との関わり
5　望ましい、これからの家庭・家族とご近所福祉と長寿者の存在
6　提言(自由回答)

第４章　調査のまとめ

は　じ　め　に

「長寿者の自立」から「真の居場所」への道程

１．静岡福祉文化を考える会の発足とその目的

平成８年３月に開催した「日本福祉文化学会・第１０回現場セミナー」の運営に関わった７０名が、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民が一緒に、地域が抱えている生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力していくことを通じて、「福祉文化の創造」を探求していくことを目的に本会は誕生して１７年が経過しました。専門分野と市民が世代を越えて交流すること、また会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をすること、既存の地域社会や福祉施設から取り残された問題や、新しく発生した問題ひとつひとつを大切にし、つねに市民生活に密着した活動を目指すことを活動の基調としています。

２．調査研究活動と福祉文化の創造へのプロセス

「素人集団」と「専門家集団」との融合こそが、『真の地域社会づくりをめざす』をもとに、本会では、地域分析を市民レベルで「地域ニーズの掘り起こし」をし、市民に問題提起をし、その時代の社会問題や課題を活動テーマとし、さらには、市民がどのような「意識と実態」かを検証する目的で、本会の活動の中心的な柱の一つに「調査研究活動」を位置付けています

３．多くの県民の協力で５年間継続できた調査研究活動に感謝

この５年間は、特に、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」の取り組みを通じて、「長寿者等の孤立・孤独防止」をもとに「長寿者の自立」から「長寿社会」「生活圏域での支え合い」「地域での居場所」と関連付けて、ここまで展開をしてきました。　そして、今年度は、家族・家庭とは何かを問いつつ「真の居場所」に関する調査研究活動に取り組むことといたしました。　　この１７年間の調査研究活動では、このたびの調査研究活動が、１，５８３件とこれまでの最高の回収状況となりました。　どのような「調査項目」にするかの話し合いに始まり、調査票の作成、そして「調査方法」の検討等、会員自らの努力により　調査の実施につなげ、「回収」「集計」「データ分析」「報告」「問題提起」をその都度行ってまいりました。　　あくまで「市民レベル」の視点で取り組んできたプロセスこそが、福祉文化の創造につながるものと考えています。　　ここに、このたびの調査研究活動にご支援ご協力をいただきました皆様方に感謝いたします。　更に様々な地域問題に焦点をあて、市民生活に密着した調査活動を続けてまいります。

静岡福祉文化を考える会　代表　平　田　　厚

第１章　調査の概要

１．調査実施意図

「静岡福祉文化を考える会」では、本会結成以来、各方面の機関・団体、そして地域実践者等の全面的な支援を得て、この１６年間「静岡発　福祉文化の創造」を目指す地域活動の大きな柱立ての一つとして、それぞれの時代における県民の意識と実態を把握し、「理論と実践の融合」を基に福祉文化活動につなぐ、さまざまな「調査研究活動」に取り組み、啓発学習につなげてきた。　これまでの調査研究活動を振り返ると、

※平成　９年度　「共働きに関する調査」
※平成 10 年度　「私たちにとって、地域とは何か意識と実態調査」
※平成 11 年度　「私たちにとって家族とはなにか調査」
※平成 12 年度　「父親に関する調査」
※平成 13 年度　「ボランティア活動実践者意識調査」
※平成 14 年度　「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
※平成 15 年度　「青少年の生きがいに関する調査」
※平成 16 年度　「地域に関する調査―その２－」
※平成 17 年度　「子どもと社会環境に関する調査」（継続調査）
※平成 18 年度　「子どもと社会環境に関する調査」（総括）
※平成 19 年度　「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
※平成 20 年度　「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」
（静岡県共同募金会助成事業）
「日常生活と福祉情報に関する調査」（静岡県委託事業）
※平成 21 年度　「長寿社会に関する県民意識と実態調査」（静岡県委託事業）
※平成 22 年度　「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く
生活圏域における支え合いとはなにか本音に迫る調査」
（静岡県委託事業）
※平成 23 年度　「地域と私の居場所その意識と実態調査」（静岡県委託事業）

と、「１６のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

平成２０年度～平成２３年度の４年間は、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組み「長寿者の生きがい」（長寿者の自立）と「長寿社会への課題」（共生社会実現への共助）「生活圏域の支え合いの仕組み」を関連づけて、共生社会の再構築向けた「福祉文化の創造」について、いくつかの課題を提起してきた。

「長寿者の真の自立」にむけて、私たちの近隣のご近所では、一体どのような地域環境

を整備していくことが望ましいのか。

関係機関・団体等の専門家集団によるネットワークや組織化による取り組みの提案が答えとすれば、問題のない地域社会はすでに構築されてしかるべきことである。

今年度の取り組みは、平成２０年度からの静岡県委託事業を一貫して考察していくプロセス重視の視点から、「長寿者の自立」（平成２０年度）から「長寿社会」（平成２１年度）「生活圏域の支え合い」（平成２２年度）そして「１人ひとりの居場所」（平成２３年度）までをもとに、「長寿者を取り巻く共生社会実現」に向けた取組みを通じて、今、あらためて問われている福祉の原点とも議論されている「家族」に焦点を合わせて、一人ひとりの真の居場所は、人々がお互いに信頼関係をもって暮らし合うご近所と家族関係をどう構築するかを考える機会とし、広く県民を対象（最低300名回収努力）に調査を実施し、地域格差、居住形態、年代別意識の隔たり等を考察し,福祉完結にならないように、多方面に「問題提起」をする目的で実施した。

２．調査方法と調査日

（１）調査の方法　郵送及び配布による「質問紙法」

（２）調査対象　　主には、県内の１０代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して実施

（３）調査日程

①　調査項目・調査票検討　　６月１０日第１３０回委員会で、学生参加で検討

②　調査票構成作業　　８月１０日

③　送付先検討、発送　　８月１９日第１３２回委員会で確認

④　調査時点　　９月１０日

⑤　調査実施期間　　９月　１日～１２月２５日

⑥　回収作業

Ａ　会員送料負担

Ｂ　協力機関・団体等には、回収状況報告・礼状、送料分を切手で送付

⑦　回収期間　　１０月２５日～　１月３０日

⑧　入力作業検討について、本委員会「調査研究部会」で協議

⑨　入力期間　　１１月２５日～１月１５日
⑩　分析・考察　　１月１５日～３月１０日の調査研究部会で実施
⑪　公表・報告

Ａ　第４回公開型研修会（ご近所福祉ＩＮぬまづ／１月１９日開催）において、チャートによる中間報告実施
Ｂ　第５回公開型研修会（共生社会実現への道程研修会／２月 24 日）で概要報告
Ｃ　調査報告書の発行
Ｄ　本会機関紙「ｏｕｒ　ｌｉｆｅ」で随時結果の概要紹介
Ｅ　本会主催研修会及び関係機関・団体等の各種研修会で結果報告実施

３．調査票の形式及び調査項目

（１）調査票の形式　Ａ４版　４ページ　２７項目
（２）調査項目

①　基本属性　⇒　設問１
②　生活者個々の家族生活状況　⇒　設問 2.3.4.5.6.7.8.9.10
③　生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識
⇒　設問 11.12
④　生活圏域における生活者と地域社会との関わり
⇒　設問 13.14.15.16.17.18
⑤　望ましい、これからの家庭・家族とご近所福祉と長寿者の存在
⇒　設問 19.20.21.22.23.24.25.26
⑥　提　　言　⇒　設問 27

４．調査対象と調査票の発送

（１）配布対象

①　会員（現在４１名）　一人１０枚　　４１０枚
②　県内社会福祉協議会（35 か所）　　３５０枚

③　県内地域実践者（民生委員／ボランティア）一人　５枚　　５６０枚
④　各種研修会、関連学校等　　２００枚
⑤　本事業実践地域（６地区）　　１８０枚
合計１７００枚

（２）調査票の発送

①メール便による方法　②郵便による発送　③手渡し　④授業・研修会場

５．調査実施機関　　静岡福祉文化を考える会

６．調査協力

（１）県内 35 市町社会福祉協議会
（２）県内地域実践者
（３）県内大学・専門学校
（４）静岡県健康生きがいづくりアドバイザー協議会

7. 回収状況

№.	依　　頼　　先	箇所数	依頼枚数	回収実数	回収実績枚数	回収率
	会員	41	410	18	142	34.6%
2	県内社会福祉協議会	35	350	15	369	105.4%
3	地域実践者	112	560	66	624	111.4%
4	学生	2	200	2	347	173.5%
5	本事業実践地区	6	180	4	101	56.1%
計		196	1700	105	1583	93.1%

※回収率は、依頼枚数に対する回収枚数の割合を示す

○これまで，１７年間実施してきた「調査活動」において、県民の回答協力の多かった「調査」は、つぎのとおりである。

1. 平成２４年度　「私にとって、家族ってなに？その意識と実態調査」1583 枚
2. 平成２３年度　「地域と私の居場所その意識と実態調査」　1440 枚
3. 平成２２年度　「生活圏域における支え合い、本音に迫る調査」　1345 枚
4. 平成２１年度　「長寿社会に関する県民意識と実態調査」　1341 枚
5. 平成１２年度　「父親像に関する実態調査」　1320 枚
6. 平成２０年度　「長寿者の生きがいその意識と実態調査」　1274 枚

◆調査研究活動では、今年度取り組んだ「家族」に関心が多く寄せられているが、全体的に「長寿者を取り巻く状況」に関する調査への関心は、受託初年度(平成２０年度)から年々回答割合が高くなっている
本事業は、調査研究事業からも、関心度が、年々高まっていることがわかる

第２章　サンプル構成／基本属性

本会が、この１７年間取り組んできた各種調査研究活動は、一貫して、県内一円に協力を求め、かつ調査の均等化とともに、信頼性をも深める努力を続け現在に至っている。

今年度の調査研究事業も、これまでと同様「均等化」に努めた。

調査対象は、全県民として、会員や市町社会福祉協議会、地域実践者等多くの協力者により、地域別や年代別、性別などに偏りが出ないように、常に工夫をして取り組んだ。

１．性別

（1）　男性　　５３７名（33.9%）　（2）　女性　１、０４６名（66,1%）

＊今回の調査回答では、これまでの調査結果とほぼ同じ、男性３割、女性７割の回答

２．世代別

（1）１０代　３２４名（２０．５%）　（5）５０代　１８２名（１１．５%）
（2）２０代　１５４名（　９．７%）　（6）６０代　３３１名（２０．９%）
（3）３０代　１９８名（１２．５%）　（7）７０代　１６８名（１０．６%）
（4）４０代　１８４名（１１．６%）　（8）８０代　　４２名（　２．７%）

＊６０代　２０．９%、次に１０代　２０．５%と多い回答であるが、全体的には、ほぼ回答割合は均等化している。

３．　職業別

＊今回の調査回答を、多い領域別にまとめると、

（1）主　婦　　２７６名（１７．７%）　（7）高校生　１１６名（　７．４%）
（2）大学生　　２７３名（１７．５%）　（8）自営業　　６０名（　３．８%）
（3）会社員　　２３２名（１４．９%）　（9）公務員　　５５名（　３．５%）
（4）無　職　　１９５名（１２．５%）　(10) その他　　４７名（　３．０%）
（5）団体職員　１５６名（１０．０%）　(11)自由業　　４名（　０．３%）
（6）パート等　１４７名（　９．４%）

＊今回は、調査個票作成段階から、大学生の参加を呼びかけたこともあり、大学生から

の回答が多くみられる。　また、会社員、団体職員等勤労者層の回答が２５％程度あり、今回の調査は、意図に沿った回答と思われる。
無職１２．５％、主婦１７．７％と約３０％は、「家族・家庭」の中心的生活者であり、考察・分析上貴重な領域である。

４．地域別

＊今回の調査回答では、中部地域からの回答が約５割を占めた。　東部及び西部地域については、ほぼ同じ割合の回答となった。
学生の回答では、県外回答が１．２％あった。

（1）東部地域	３８５名	（２４．４％）
（2）中部地域	７８１名	（４９．５％）
（3）西部地域	３９３名	（２４．９％）
（4）県外他	１９名	（　１．２％）

５．居住別

（1）持ち家	１，２９５名	（８２．２％）
（2）借　家	２２７名	（１４．４％）
（3）社宅・官舎	２５名	（　１．６％）
（4）その他	２９名	（　１．８％）

＊今回の調査回答では、「持ち家」が約８割を占めている。
その意味では、今回の調査の「家庭・家族の意識と実態」が、居住環境から、比較的明確に回答されていると感じる。

６．居住歴別

＊今回の調査回答では、「持ち家」が約８割を占めていることから、それに比例して、居住歴が比較的定住した回答である。

１～５年未満の回答が１２．６％，１０～２０年未満が３３．７％、３０年未満～３０年以上が５３．８％となっている。　　８１．１％の回答者は１０年以上近隣地域

で居住している。

（1）1年未満　７８名　（　５．０％）　（6）１５年未満　146 名　（　９．３％）
（2）２年未満　３８名　（　２．５％）　（7）２０年未満 284 名　（１８．０％）
（3）3年未満　３０名　（　１．９％）　（8）３０年未満　215 名　（１３．７％）
（4）5年未満　５０名　（　３．２％）　（9）３０年以上　632 名　（４０．１％）
（5）10 年未満１０１名　（　６．４％）

７．地域形態別

（1）街　　部　４３８名　（２８．３％）
（2）新興住宅地　４１８名　（２８．３％）
（3）農　村　部　４５９名　（２９．６％）
（4）山　間　地　１２２名　（　７．９％）
（5）そ　の　他　　６８名　（　４．４％）

＊今回の調査回答では、地域形態はほぼ均等化している。

８．居住形態別

＊調査目的から、今回新たに、基本属性の項目として、「居住形態別」を加えた。

一番回答の多かった居住形態は「親と子供だけの家族」４５．５％、2 番目は、「祖父母や孫が同居する大家族」で２８．１％、3 番目は「夫婦だけの家族で１６．２％であった。

（1）祖父母や孫が同居する大家族　４４０名　（　２８．１％）
（2）親と子供だけの家族　７１３名　（　４５．５％）
（3）夫婦だけの家族　２５４名　（　１６．２％）
（4）一人暮らし（配偶者との死別、離別、別居）　３０名　（　１．９％）
（5）一人暮らし（未婚）　９２名　（　５．９％）
（6）その他　３７名　（　２．４％）

第３章　調 査 結 果

本調査では、調査 27 項目について、「基本属性」「生活者個々の家族生活状況」「生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識」「生活圏域における生活者と地域社会との関わり」「望ましい、これからの家庭・家族とご近所福祉と長寿者の存在」「提言」の６つの考察区分としてまとめた。

１．基　本　属　性

本調査の基本となる

（１）「個人属性」・・・・・・・・・・・・性別、年代、職業

（２）「住環境・居住環境属性」・・・・・現在の居住地、持ち家、借家など居住形態、街部新興住宅地など地域環境

（３）「生活環境属性」・・・・・・・・・・居住年数、同居家族状況

を選んで、個々の結果を項目ごとの分析考察につなげた。

（１）性別と年齢別に関して

	男性	女性	総計
１０代	106	218	324
20 代	63	91	154
30 代	52	146	198
40 代	57	127	184
50 代	45	137	182
60 代	143	188	331
70 代	59	109	168
80 代以上	12	30	42
総計	537	1046	1583

	男性	女性	総計
１０代	32.8%	67.2%	100%
20 代	40.9%	59.1%	100%
30 代	26.3%	73.7%	100%
40 代	31.0%	69.0%	100%
50 代	24.7%	75.3%	100%
60 代	43.2%	56.8%	100%
70 代	35.1%	64.9%	100%
80 代以上	28.6%	71.4%	100%
総計	33.9%	66.1%	100%

性別回答では、男性３３．９％、女性６６．１％であった。　毎回男性３割、女性７割の傾向は変わりはない状況にある。　特に今回は、１０代の女性が一番多く回答され、次に６０代女性、３０代女性、そして、男性６０代となった。　年代別では、６０代が２０．９％と多く、次に１０代の２０．４％、３０代の１２．５％と続きている。

回答全体では、４０代から６０代からの回答が４４％と一番多く、次に１０代から３０代までが４２．６％となっている。　今回の特徴として、比較的若い年代層からの回答が寄せられており、若者の意識と実態を受け止めることが出来る結果となっている。

７０代以上の回答は、１３．３％となっているが。６０代は、２１％の回答を寄せている。

こうした領域から、このたびの「家族ってなに？意識と実態調査」では、これからの未来志向に向けた「長寿者の取り巻く生活圏域」をある程度考察した調査にもなっていると感じる。

（2）性別と職業別に関して

	男性	女性	総計
中学・高校生	14	101	115
短大生・専門学校生・大学生	118	155	273
会社員	132	100	232
公務員	22	33	55
自営業	33	27	60
団体職員	69	87	156
自由業	1	3	4
主婦	0	276	276
パート・フリーター	15	132	147
無職	104	91	195
その他	21	26	47
(空白)	7	16	23
総計	536	1047	1583

	男性	女性	総計
中学・高校生	12.2%	87.8%	100%
短大生・専門学校生・大学生	43.2%	56.8%	100%
会社員	56.9%	43.1%	100%
公務員	40.0%	60.0%	100%
自営業	55.0%	45.0%	100%
団体職員	44.2%	55.8%	100%
自由業	25.0%	75.0%	100%
主婦		100.0%	100%
パート・フリーター	10.2%	89.8%	100%
無職	53.3%	46.7%	100%
その他	44.7%	55.3%	100%
(空白)	31.8%	68.2%	100%
総計	33.9%	66.1%	100%

今回の調査回答者の領域は、高校生から大人社会、学校教育から企業社会、地域社会全体と幅広い領域からの協力をいただき実施することが出来たと言える。

一番多い領域は大学生である。　ここには多少意図的な意味合いを持って協力を呼びかけた経緯がある。

彼らの年代は、とかく家庭や生活圏域をしっかりと受け止めがたく、かつ等質集団の世界にあって地域社会を充分理解しがたい側面を持っていると感じ、将来を見据えるためにこうした機会に、若者の意識と実態を把握できればと今日ｋ六を呼びかけた。　　一番回答の多かった層は、主婦層１７．４％である。　次に学生層の１７．２％、次に、会社員の１４．７％、無職の１２．３％となっている。

職業別では、学生等の未来志向と主婦、無職、会社員等の現実志向が交差した結果が今回の調査の回答から伺えていると感じる。

（3）性別と居住形態に関して

	男性	女性	総計
持ち家	429	866	1295
借　家	84	142	226
社宅・官舎	12	13	25
その他	10	19	29
(空白)	2	6	8

	男性	女性	総計
持ち家	33.2%	66.8%	100%
借　家	37.2%	62.8%	100%
社宅・官舎	48.0%	52.0%	100%
その他	34.5%	65.5%	100%
(空白)	28.6%	71.4%	100%

総計	537	1046	1583

総計	33.9%	66.1%	100%

今回の回答は、持ち家が７６．１％と約８割を占めている。　次に、借家が１４．３％、社宅･官舎が８％。　いずれにしても、生活圏域を短期に構えていることなく、ある程度地域性を長期に構えた生活者として構えた回答と受け止めることが出来る。　中でも、持家のうち女性の占める割合は全体の５４．７％と高く、さらに生活者視点の回答と受け止めることが出来る。

（４）性別と地域環境に関して

	男性	女性	総計
街　部	160	278	438
新興住宅地	152	311	463
農村部	168	290	458
山間部	43	79	122
その他	12	56	68
(空白)	2	32	34
総計	537	1046	1583

	男性	女性	総計
街　部	36.5%	63.5%	100%
新興住宅地	32.8%	67.2%	100%
農村部	36.7%	63.3%	100%
山間部	35.2%	64.8%	100%
その他	17.6%	82.4%	100%
(空白)	6.1%	93.9%	100%
総計	33.9%	66.1%	100%

全体的には、新興住宅地２９．２％、農村部２８．９％、街部２７．７％の三地域からの回答者はほぼ同数であった。　山間地からの回答者は７．７％。　こうした傾向からみると比較的落ち着いた生活圏域からの回答傾向にもうかがえる。

（５）性別と居住年数に関して

	男性	女性	総計
１年未満	42	36	78
2 年未満	13	26	39
3 年未満	10	19	29
5 年未満	12	38	50
10 年未満	24	77	101
15 年未満	31	115	146
20 年未満	87	197	284
30 年未満	78	137	215
30 年以上	236	396	632
(空白)	4	5	9
総計	537	1046	1583

	男性	女性	総計
１年未満	7.8%	3.4%	4.9%
2 年未満	2.4%	2.5%	2.5%
3 年未満	1.9%	1.8%	1.8%
5 年未満	2.2%	3.6%	3.2%
10 年未満	4.5%	7.4%	6.4%
15 年未満	5.8%	11.0%	9.2%
20 年未満	16.2%	18.9%	18.0%
30 年未満	14.5%	13.1%	13.6%
30 年以上	43.9%	37.9%	39.9%
(空白)	0.7%	0.4%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

回答者の約４０％が３０年以上の居住年数歴を有している。

次に、２０年未満が１８％、次に３０年未満１４％と比較的回答者ｈ居住年数は長い。

それだけに、生活圏域における関係づくりについては、その深さをもって回答していることと察する。

（６）性別と同居家族に関して

	男性	女性	総計
祖父母と孫の大家族	129	311	440
親子	244	468	712
夫婦だけ	89	165	254
一人暮らし	8	22	30
一人（未婚）	52	40	92
その他	12	25	37
（空白）	3	15	18
総計	537	1046	1583

	男性	女性	総計
祖父母と孫の大家族	24.5%	29.8%	27.8%%
親子	45.4%	44.8%	45.0%
夫婦だけ	16.6%	15.8%	16.1%
一人暮らし	1.5%	2.1%	1.9%
一人（未婚）	9.7%	3.8%	5.8%
その他	2.2%	2.4%	2.3%%
（空白）	0.6%	1.3%	1.1%
総計	100.0%	100.0%	100%

回答の多い家族構成は、親子が４５％と一番多い。　　次に祖父母と孫の大家族が２７．８％と続く回答である。　　今回のテーマ「家族ってなに？」を一番身近に実体験している環境にあり、現実の社会を反映している回答とも受け止められる。　　１６．１％の回答者である夫婦だけの傾向や、約３０名（２％）の単身世帯の回答も関心を持つ。　　ここでは、家族構成がいかに生活環境を安定化しているかに注目することが出来る。

２．生活者個々の家族生活状況に関する考察

ここからは、このたびの調査「今、あらためて、“家族の実像”に迫る、私にとって、家族ってなに？その意識と実態調査」の２７の調査項目を大きく

（１）生活者個々の家庭生活状況
（２）生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識
（３）生活圏域における生活者と地域社会との関わり
（４）望ましい、これからの家庭・家族とご近所福祉と長寿者の存在
（５）提言(自由回答)

の５つの区分で調査結果をまとめる。

ここでは、「生活者個々の家庭生活状況　」を次の９項目をもとに考察をした。

（１）設問２　家族を大切にしているか
（２）設問３　家族の持つ総対的雰囲気
（３）設問４　家庭はどのような意味をもっているか
（４）設問５　家族と食事を通しての交流度合
（５）設問６　子どもと共にする生活
（６）設問７　家庭内で家事に対する考え方
（７）設問８　設問７で、①②③に○の回答した人に具体的な家事の内容
（８）設問９　一番家族を必要だと感じるとき

（９）設問 10　家族と挨拶（会話）基本的コミュニケーション

（１）家族の大切さ

全体では、「とても大切にしている」「大切にしている」「少し大切にしている」を合わせると、９８％と高い回答となっている。　これを家族構成別にみると、家族の大切さの高い回答順では「夫婦」「大家族」「一人暮らし」「親子」となっている。　「一人暮らし(未婚)」は、どちらかというと大切にしない」４．３％と高い回答となっている。　ここでは、「長寿者の孤立」は感じられない回答領域。である。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他
とても大切にしている	709	44.8%	48.4%	44.4%	45.7%	53.3%	31.5%	35.1%
大切にしている	730	46.1%	45.0%	45.2%	50.0%	40.0%	45.7%	51.4%
少し大切にしている	113	7.1%	5.0%	8.7%	3.9%	3.3%	16.3%	8.1%
どちらかといえば大切にしていない	16	1.0%	0.5%	1.3%	0.4%	0.0%	4.3%	0.0%
大切にしていない	5	0.3%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%
(白紙)	10	0.7%	0.5%	0.3%	0.0%	3.3%	2.2%	2.7%
総　　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（２）家族の持つ総対的雰囲気

家族のもつ雰囲気の全体の回答状況は、「明るい」「楽しい」「仲がいい」「まとまりがある」といったプラス志向の回答が多いが、マイナス志向の回答が全体の１７％を占めていることにも注目をしたい。

大家族、親子は「明るい」、夫婦は「仲がいい」、一人暮らしは「仲が良かった」と回想の回答。

マイナス志向の回答は、一人暮らし(未婚)が１４．２％、次に親子１２．５％。単身世帯は６．５％。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
明るい	660	41.7%	45.5%	42.8%	36.6%	40.0%	38.0%	24.3%	41.7%
暗い	20	1.3%	1.1%	1.4%	0.8%	3.3%	1.1%	2.7%	1.3%
楽しい	371	23.4%	23.4%	25.4%	20.1%	13.3%	22.8%	16.2%	23.4%
つまらない	25	1.6%	0.7%	2.1%	2.0%	0.0%	2.2%	0.0%	1.6%
仲がいい	516	32.6%	27.3%	33.4%	39.8%	50.0%	30.4%	21.6%	32.6%
仲が悪い	31	2.0%	2.5%	1.5%	2.0%	0.0%	4.3%	0.0%	2.0%
まとまりがある	139	8.8%	7.5%	7.6%	13.4%	10.0%	5.4%	18.9%	8.8%
まとまりが悪い	86	5.4%	5.2%	5.9%	1.6%	3.3%	13.0%	5.4%	5.4%
にぎやか	307	19.4%	27.0%	21.3%	4.7%	10.0%	16.3%	13.5%	19.4%
おとなしい	125	7.9%	7.0%	7.2%	13.0%	3.3%	3.3%	13.5%	7.9%
やすらぐ	40	2.5%	13.9%	15.3%	21.7%	10.0%	16.3%	18.9%	2.5%
疲れる	103	6.5%	8.4%	6.6%	3.9%	0.0%	3.3%	16.2%	6.5%
温かい	188	11.9%	12.0%	10.4%	14.2%	13.3%	13.0%	16.2%	11.9%
冷たい	6	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	3.3%	1.1%	0.0%	0.4%

その他	30	1.9%	2.0%	1.3%	2.4%	0.0%	2.2%	10.8%	1.9%
(空白)	519	32.7%	16.4%	17.3%	23.6%	40.0%	27.2%	21.6%	32.7%
総　　計	3,166	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%

（３）家庭のもつ意味

全体の回答では、「休息・安らぎの場」３８％、「家族の団らんの場」３１％、「親子がともに成長する場」１２．８％、次に「家族の絆を強める場」９．７％となっている。　世代別に分析をすると１０代は「わからない」４９．１％、２０代は「わからない」２０．８％、３０代は「子供を産み育てる場」３８．９％、４０代は「親子がともに成長する場」２２．７％、５０代は「親の世話をする場」３１．３％、６０代は「子供をしつける場」３３．３％、７０代は「夫婦の愛情をはぐくむ場」４０％、８０代では「家族の絆を強める場」と年代で明確に意識が違う。

	回答数	百分比	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	総計
家族の団らんの場	480	30.3%	24.8%	8.8%	14.0%	10.6%	10.9%	18.2%	9.8%	2.9%	100.0%
休息・安らぎの場	602	38.0%	22.3%	12.1%	8.5%	9.7%	11.6%	23.3%	10.1%	2.3%	100.0%
家族の絆を強める場	153	9.7%	9.8%	6.5%	7.2%	11.8%	11.1%	28.8%	19.6%	5.2%	100.0%
親子がともに成長する場	203	12.8%	6.9%	6.4%	23.6%	22.7%	11.3%	20.2%	7.4%	1.5%	100.0%
子供を産み育てる場	18	1.1%	11.1%	5.6%	38.9%	11.1%	5.6%	16.7%	11.1%		100.0%
夫婦の愛情をはぐくむ場	20	1.3%	5.0%		10.0%		25.0%	20.0%	40.0%		100.0%
子供をしつける場	9	0.6%	44.4%	11.1%	11.1%			33.3%			100.0%
親の世話をする場	16	1.0%		6.3%	12.5%	12.5%	31.3%	31.3%	6.3%		100.0%
その他	16	1.0%	43.8%	12.5%	12.5%		12.5%		18.8%		100.0%
わからない	53	4.2%	49.1%	20.8%	11.3%	11.3%	3.8%	1.9%		1.9%	100.0%
(空白)	13	0.8%	7.7%			7.7%	38.5%	23.1%	7.7%	15.4%	100.0%
総　　計	1,570	100.0%	20.4%	9.7%	12.5%	11.6%	11.5%	20.9%	10.6%	2.7%	100.0%

（４）家族と食事を通しての交流度合

「家族と食事をしている」が８４．１％あるが、「時々しか一緒に食事をしない」は、１０．４％。これらを家族構成別で見ると、「一人暮らし」次に「一人暮らし（未婚）」「親子」「大家族」「夫婦」の順に一緒に食事をすることが疎遠になっている傾向にある。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
ほとんどいつも家族の誰かと一緒に食べている	910	57.5%	62.7%	56.7%	69.3%	13.3%	23.9%	54.1%	57.5%
毎日少なくとも１回は家族の誰かと一緒に食べる	388	24.5%	24.5%	28.1%	21.3%	10.0%	9.8%	24.3%	24.5%
時々家族の誰かと一緒に食べている	161	10.2%	8.2%	11.5%	5.1%	23.3%	17.4%	13.5%	10.2%
家族とは一緒に食べていない	84	5.3%	2.3%	2.1%	1.6%	36.7%	44.6%	2.7%	5.3%

(空白)	40	2.5%	2.3%	1.5%	2.8%	16.7%	4.3%	5.4%	2.5%
総　　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（５）子どもと共にする生活ことについて

全体的には、「一緒に住みたい」５６．５％ 、「同居したくない」１６．６％。
これを世代別にみると、　「一緒に住みたい」は、各年代とも多く回答している。
しかしながら、１０代～４０代は、「わからない」の回答も選択肢としていることに注目できる。
５０代～８０代以上では、第２位に「同居したくない」を選んでいる。

家族構成別では「一緒に住みたい」を全家族が一番に選んでいるが、「夫婦で暮らす」「一人暮らし」では、「同居したくない」を２位に選んでいる比率が、他の家族に比べ非常に高い。
女性の約２０％が「同居したくない」と回答しているのに比べ、男性は、約６６．５％が「一緒に住みたい」と回答。

	回答数	百分比	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	総計
どちらかと言えば同居はしたくない	262	16.6%	8.0%	5.8%	11.1%	12.5%	27.5%	26.0%	23.8%	14.3%	16.6%
どちらかと言えば一緒に住みたい	894	56.5%	62.5%	53.9%	54.0%	53.8%	50.5%	57.4%	56.0%	64.3%	56.5%
わからない	362	22.9%	26.3%	36.4%	33.8%	30.4%	20.9%	11.2%	10.7%	9.5%	22.9%
	65	4.0%	3.1%	3.9%	1.0%	3.3%	1.1%	5.4%	9.5%	11.9%	4.0%
総　　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計	男性	女性	総計
同居したくない	10.2%	14.6%	34.6%	26.7%	8.7%	18.9%	16.6%	10.6%	19.6%	16.6%
一緒に住みたい	65.0%	56.7%	38.2%	53.3%	65.2%	59.5%	56.5%	66.5%	51.4%	56.5%
わからない	21.6%	25.3%	20.9%	6.7%	22.8%	18.9%	22.9%	18.4%	25.1%	22.8%
(空白)	3.2%	3.4%	6.3%	13.3%	3.3%	2.7%	4.0%	4.5%	3.9%	4.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（６）家庭内の家事に対する考え方

	回答数	百分比	男性	女性	総計	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
ほとんど自分がやっている	672	42.5%	8.2%	91.8%	100.0%	30.7%	41.4%	57.9%	73.3%	54.3%	43.2%	42.5%
半分くらいはやる	201	12.7%	37.3%	62.7%	100.0%	14.8%	11.2%	13.0%	13.3%	7.6%	21.6%	12.6%
少しくらいはやる	374	23.6%	57.6%	42.4%	100.0%	29.5%	23.2%	17.7%	6.7%	19.6%	24.3%	23.6%
たまにやる	181	11.4%	57.5%	42.5%	100.0%	15.2%	12.6%	5.1%	3.3%	7.6%	5.4%	11.4%
ほとんどやらない	125	7.9%	62.4%	37.6%	100.0%	8.0%	9.8%	3.5%	3.3%	8.7%	5.4%	7.9%

(空白)	30	1.9%	33.3%	66.7%	100.0%	1.8%	1.7%	2.8%	0.0%	2.2%	0.0%	1.9%
総　　計	1,583	100.0%	33.9%	66.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体の回答では、「ほとんど、自分がやっている」　４２．５％が一番多く、次に「少しくらいはやる」２３．６％、「半分くらいはやる」１２．７％、「たまにやる」１１．４％の順。

女性は、「ほとんど、自分がやっている」９１．８％に対して、男性は８．２％。　男性は「少しくらいはやる」「たまにはやる」がそれぞれ５７％の実情。

「ほとんどやらない」は男性６２．４％と目立つ。

家事労働は、家族構成別に見ると、「大家族多世代」「親子２世代」「夫婦１世代」と、家族人数により労働密度が分散されていることが伺える。

（７）具体的な家事の内容

ここでは、具体的な家事内容の回答が多い順にあげると、①食事の準備　４８．８％　②室内掃除　４１．３％　③洗濯･取出し･取入れ　３４．２％　④食器洗い　２０．６％　⑤風呂場の掃除　１９．６％　⑥買い物　１７．４％の順。

性別にみると、女性は「食事の準備」「室内掃除」「洗濯･取出し･取入れ」「食器洗い」「買い物」「風呂場の掃除」「トイレ掃除」の順の回答である。

男性の回答の多い順にあげると「室内掃除」「風呂場の掃除」「風呂場の掃除」「食器洗い」「ごみだし」「洗濯･取出し･取入れ」の順である。

	回答数	百分比	男性	女性	総計
室内掃除	653	41.3%	27.9%	48.1%	41.3%
風呂場の掃除	311	19.6%	26.6%	16.0%	19.6%
食事の準備	773	48.8%	19.7%	63.8%	48.8%
食器洗い	421	26.6%	24.2%	27.8%	26.6%
屋外（庭）掃除	139	8.8%	16.9%	4.6%	8.8%
ごみだし	175	11.1%	21.8%	5.6%	11.1%
トイレ掃除	98	6.2%	3.5%	7.6%	6.2%
ペットの世話	89	5.6%	7.1%	4.8%	5.6%
洗濯･取出し･取入れ	542	34.2%	20.5%	41.2%	34.2%
買い物	276	17.4%	13.6%	19.4%	17.4%
その他	53	3.3%	2.4%	5.0%	3.3%
(空白)	1225	76.3%	115.6%	56.1%	76.3%
総　　計	4755	300.0%	300.0%	300.0%	300.0%

（８）一番家族を必要だと感じるとき

全体的回答では、「健康に自信を無くした時」が一番多く３２．８％、次に、「身辺のことで相談を

したいとき」２３．５％、「生活に不安を感じた時」２３．２％となっている。

これを年代別に考察すると、１０代では「生活に不安を感じた時」３１．９％、２０代も「生活に不安を感じた時」やや多く３２．１％、３０代では、「身辺のことで相談をしたいとき」３１．３％。

４０代からは「健康に自信を無くした時」２７．２％、５０代も「健康に自信を無くした時」４４．５％、６０代「健康に自信を無くした時」４７．４％、７０代「健康に自信を無くした時」５４．２％と加齢化と共に高くなる。　　８０代は「健康に自信を無くした時」５２．４％。

	回答数	百分比	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代上	総計
生活に不安を感じた時	367	23.2%	31.9%	31.2%	25.8%	26.1%	19.8%	15.7%	13.7%	11.9%	23.2%
身辺のことで相談をしたいとき	372	23.5%	26.0%	26.6%	31.3%	25.0%	22.5%	17.5%	19.6%	16.7%	23.5%
健康に自信を無くした時	519	32.8%	12.7%	18.8%	24.2%	27.2%	44.5%	47.4%	54.2%	52.4%	32.8%
経済的な問題を生じたとき	98	6.2%	14.9%	11.0%	4.0%	2.7%	2.7%	3.3%	2.4%		6.2%
いま、報告をしたいことが生じた時	101	6.4%	8.7%	6.5%	5.6%	8.2%	4.4%	6.3%	4.8%		6.4%
その他	42	2.7%	1.2%	1.3%	5.6%	6.0%	2.2%	2.4%	0.6%	2.4%	2.7%
感じない	21	1.3%	2.2%	0.6%	1.0%	1.1%	1.1%	1.5%		4.8%	1.3%
（空白）	63	3.9%	2.5%	3.9%	2.5%	3.8%	2.7%	5.7%	4.8%	11.9%	3.9%
総　　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（９）家族との基本的コミニケーション（挨拶・会話）

全体の回答結果では、「家族と積極的に挨拶(会話)をよくする」が４９％。　　「まあまあしている」４２％を加えると、９１％と良好な挨拶（会話）状況にある。

少数回答ではあるが、「気が向かないとしない」「特定な家族のみしかしない」の回答が５％存在している。　生活を共にしている家族関係にあっては不自然でもある。

年代別の回答結果をみると、１０代では「会話あり」４０．５％、２０代では１９．２％、３０代で２５．４％、４０代では、２４．２％、５０代で２３．５％と、２０代から５０代までの年代では、やや消極的な挨拶(会話)傾向にある。　６０代は、１０代とほぼ同じ４１．７％。　しかし７０代となると２０．７％、８０代では、５％と極端に低い回答になっている。　家族形態では、一人暮らしの方を除き、「大家族」や「親子」「夫婦」の環境にあっても、家族間の会話の不足が、回答結果からも見られる。「夫婦」生活の上でも、「気が向かないとしない」「しない」を合わせると29％の回答になっている。

	回答数	百分比	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代上	総計
積極的によくする	776	49.0%	17.3%	10.2%	15.9%	15.5%	10.8%	18.7%	9.7%	2.1%	100.0%
まあまあしている	665	42.0%	23.2%	9.0%	9.5%	8.7%	12.7%	23.0%	11.0%	2.9%	100.0%
気が向かないとしない	56	3.5%	28.6%	10.7%	10.7%	3.6%	12.5%	16.1%	14.3%	3.6%	100.0%

特定な家族のみしかしない	23	1.5%	34.8%	8.7%	13.0%	8.7%	8.7%	13.0%	8.7%	4.3%	100.0%
しない	25	1.6%	24.0%	20.0%	8.0%	4.0%	16.0%	24.0%	4.0%		100.0%
(空白)	38	2.4%	13.2%	5.3%	2.6%	2.6%	2.6%	39.5%	23.7%	10.5%	100.0%
総　　計	1,545	100.0%	20.4%	9.7%	12.5%	11.6%	11.5%	20.9%	10.6%	2.7%	100.0%

	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
積極的に良くする	29.6%	47.8%	15.0%	1.4%	4.3%	1.8%	100.0%
まあまあしている	27.5%	43.6%	17.6%	1.8%	6.5%	3.0%	100.0%
気が向かないとしない	25.0%	42.9%	16.1%	3.6%	10.7%	1.8%	100.0%
特定の家族のみしかしない	30.4%	47.8%	13.0%	0.0%	4.3%	4.3%	100.0%
しない	12.0%	44.0%	16.0%	4.0%	20.0%	4.0%	100.0%
(空白)	22.2%	36.1%	19.4%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
総計	28.1%	45.5%	16.2%	1.9%	5.9%	2.4%	100.0%

３．生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識

ここでは、「生活圏域における生活者と長寿者との関わりと意識」に関して、次の２項目をもとに考察をした。

（１）設問 11　家族の生活に果たす長寿者の役割
（２）設問 12　老後の生活の希望

（１）家族の生活に果たす長寿者の役割

家族の生活に果たす長寿者の役割に関する意識の全体回答結果は、

①家族･親族の相談相手になる　32.1%
②家族の支え手になる　23.8%
③家族や親族関係の中の長(まとめ役)である　22.7%

	回答数	百分比	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代上	総計
家事を担う	122	7.7%	8.7%	9.1%	4.5%	7.1%	7.7%	4.2%	13.1%	4.8%	7.7%
家族･親族の相談相手になる	489	30.9%	21.7%	26.0%	33.3%	36.4%	37.4%	33.2%	32.1%	31.0%	30.9%
家族や親族関係の中の長(まとめ役)である	345	21.9%	20.4%	16.9%	26.3%	24.5%	18.7%	24.2%	22.0%	11.9%	21.9%
家族の支え手になる	363	22.9%	26.6%	24.0%	16.2%	20.7%	24.7%	23.3%	23.2%	21.4%	22.9%
小さな子供の世話をする	45	2.8%	5.3%	5.8%	4.5%	1.6%		1.8%	0.6%		2.8%

病気や障害を持つ家族・親族の面倒を見る	17	1.1%	1.2%			0.5%	1.1%	2.7%	0.6%		1.1%
その他	26	1.6%	1.2%	1.3%	3.0%	1.6%	2.7%	1.2%	0.6%	2.4%	1.6%
わからない	116	7.3%	11.8%	14.9%	9.6%	6.0%	6.0%	3.0%	3.0%	11.9%	7.3%
(空白)	60	3.8%	3.1%	1.9%	2.5%	1.6%	1.6%	6.3%	4.8%	16.7%	3.8%
総　　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年代別回答では、１０代は「家族の支え手になる」、２０代～８０代までは、多くは、長寿者の役割を「家族･親族の相談相手になる」と回答している。

二番目に多い回答は、３０代から６０代までは「家族のまとめ役」を期待しているが、７０代～８０代の回答は「家族の支え手」の回答が多い。　「まとめ役」と「支え手」の役割に若干の意識の差が見られる。　　１０代、２０代、８０代に１割程「わからない」の回答あり。

（２）老後の生活設計と希望

老後の生活をどのように過ごしたいか、全体の回答からは、①のんびりと過ごしたい 37.9%　②家族と一緒に暮らす　24.6%、　③趣味を楽しみたい 24.3%　と回答あり。　また、「趣味をたのしむ」２４．３％、「健康のためにスポーツをしたい」４．７％、「地域活動をしたい」４．３％、仕事を続けたい」３．１％等、老後に具体的な目標を持っている回答が７５．１パーセント伺える。

	回答数	百分比
家族と一緒に暮らす	380	24.0%
のんびりと過ごしたい	586	37.0%
趣味を楽しみたい	376	23.8%
健康のためスポーツをしたい	73	4.6%
地域活動をしたい	66	4.2%
仕事を続けたい	48	3.0%
その他	18	1.1%
(空白)	36	2.3%
合　　計	1,583	100.0%

４．生活圏域における生活者と地域社会との関わり

「家族ってなに？」を主題にした今回の調査は、ここでは、「家族・家庭」と「生活圏域としてのご近所」の関連性をみることとして「地域活動への参加」「周辺自治会とのコミニケーション」「地域の生活不安」など、ここでは、下記の６項目をもとに考察をした。

（１）設問 13　家族の地域行事・活動への参加
（２）設問 14　家族の中で、地域行事・活動は誰が参加しているか、どのような内容か
（３）設問 15　周辺のコミュニティに対する考え方

（４）設問 16　親しく付き合っている人は誰か
（５）設問 17　家族の周辺の地域に対する、将来への不安度合
（６）設問 18　地域ぐるみの見守り活動の必要性

（１）家族の地域行事や活動への参加状況を問う

全体の回答結果は、総じてやや消極的な地域参加状況にあると伺えた。　「積極的参加」が３５．９％、「時々参加」が４９．４％、「ほとんど参加しない」が１４．８％。　更に、家族構成別から の考察をした結果は、「大家族」の家庭では、家族ぐるみの参加が 44.1%と高い回答結果である。

「夫婦」の地域参加の傾向は３８．６％と多い。　その次が「親子」の３０．３％である。

生活環境からか、地域参加の状況は「一人暮らし」２０％、「一人未婚」２７．２％と,「ほとんど地域行事参加をしていない」と回答している。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
積極的に参加している	556	35.1%	44.1%	30.3%	38.6%	26.7%	20.7%	35.1%	35.１%
時々参加している	765	48.3%	43.9%	52.1%	45.7%	40.0%	50.0%	56.8%	48.3%
ほとんど参加していない	229	13.9%	10.5%	16.0%	12.6%	20.0%	27.2%	8.1%	13.9%
(空白)	33	2.7%	1.6%	1.5%	3.1%	13.3%	2.2%	0.0%	2.7%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（２）家族の地域活動

それでは、家族の中で、誰が積極的に地域参加の機会を持っているかの回答では、回答者(本人)が３１％を占めている。　大家族では、「父」１７．３％、「家族そろって」１６．１％、「祖父母」１４．１％と回答結果が出ている。　ここでは「母」の地域参加の動きはあまり感じない。

「親子」では、「大家族」の傾向に近い、「父」１７．４％、「家族そろって」１３．８％とほぼ同じ回答結果が出ている。　ここでは、「父」に代わって「母」の地域参加の動きが伺える。

こうした側面から,判断できることは、意外と「父親(男性)」は地域参加はあり、家庭内に孤立した状態ではない一面を感じる。　「夫婦」間ではあまり積極的な参加は伺えず。

「一人暮らし」の方の地域参加は回答結果からは、積極的地域参加と伺える。

「一人暮らし(未婚)」層は、本人自身の地域参加は消極的であり、家族との関係での地域参加も少ないことが結果から伺える。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
父	110	6.9%	17.3%	17.4%	5.5%	0.0%	20.7%	8.1%	6.9%
母	175	11.0%	11.4%	12.9%	2.4%	6.7%	20.7%	5.4%	11.0%
両親	137	8.7%	9.1%	11.3%	2.0%	0.0%	10.9%	2.7%	8.7%

祖父母	95	6.0%	14.1%	2.5%	0.4%	0.0%	15.2%	0.0%	6.0%
兄弟姉妹	21	1.3%	0.2%	1.4%	0.8%	3.3%	5.4%	5.4%	1.3%
家族そろって	223	14.1%	16.1%	13.8%	15.7%	3.3%	5.4%	13.5%	14.1%
本人	491	31.0%	20.2%	29.1%	52.0%	70.0%	16.3%	59.5%	31.0%
その他	238	15.1%	7.0%	6.0%	12.2%	0.0%	1.1%	5.4%	15.1%
（空白）	93	5.9%	4.5%	5.5%	9.1%	16.7%	4.3%	0.0%	5.9%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（３）家族の参加している活動の内容

それぞれの家族は、日頃、生活圏域において、どのような「地域参加活動」をしているかを問い正した回答結果である。

全体の回答から順位を上げると

① 地域の祭り・・・・・・・・・・・・・地域の伝統文化行事　37.6%
② 清掃活動　・・・・・・・・・・・・・協働作業としての取り組み　36.1%
③ 防災訓練　・・・・・・・・・・・・・地域コミュニティの基盤強化　32.3%
④ 奉仕活動　・・・・・・・・・・・・・相互扶助　16.0%
⑤ ＰＴＡ・こどもかい活動　・・・・・青少年健全育成　11.6%
⑥ スポーツ関連行事　・・・・・・・・・地域親睦交流　6.2%
⑦ 文化関連行事　・・・・・・・・・文化芸術振　5.8%
⑧ 交通安全活動　・・・・・・・・・安全・安心　2.8%

いずれの活動も、長い地域組織化活動にあっては、「家庭・家族機能」と「地域社会」をつなぎ、支え合う重要な地域づくりの基盤となる内容である。
しかしながら、決して、すべとの地域住民がこうした活動や行事に参加しているとは限らない。
「ほとんど参加していない」と回答した方(年代別)に、その理由を聞いた結果は次のとおりである。

	回答数	百分比	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	総計
時間がない	75	32.6%	36.0%	20.0%	12.0%	10.7%	8.0%	9.3%	4.0%		100.0%
興味がわかない	19	8.3%	31.6%	15.8%	21.1%	10.5%	5.3%	15.8%			100.0%
自分に合った活動がない	11	4.8%	27.3%	9.1%	18.2%	27.3%		18.2%			100.0%
健康でない	11	4.8%				9.1%	27.3%	18.2%	36.4%	9.1%	100.0%
費用が掛かる	1	0.4%	100.0%								100.0%
近くに活動がない	14	6.1%	21.4%	14.3%	28.6%		21.4%		14.3%		100.0%
情報が入らない	24	10.4%	37.5%	33.3%	20.8%		4.2%	4.2%			100.0%
一緒に活動する人がいない	8	3.5%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%		12.5%	12.5%	12.5%	100.0%
参加のきっかけがない	24	10.4%	16.7%	16.7%	25.0%	4.2%	20.8%	12.5%	4.2%		100.0%
参加したいと思わない	26	11.3%	23.1%	23.1%	15.4%	11.5%	11.5%	3.8%	7.7%	3.8%	100.0%
その他	4	1.7%		25.0%	25.0%		25.0%	25.0%			100.0%
(空白)	13	5.7%	19.2%	8.3%	11.9%	12.1%	11.6%	22.7%	11.4%	2.9%	100.0%

合　計	230	100.0%	20.4%	9.7%	12.5%	11.6%	11.5%	20.9%	10.6%	2.7%	100.0%

まず、全体の回答結果の多い順から、

①「時間がない」　３２．６％
②「参加したいと思わない」　１１．３％
③「参加のきっかけない」　１０．４％
③「情報が入らない」　１０．４％
⑤「興味がわかない」　８．３％

となっている。

年代別にみると、１０代では、「費用が掛かる」、２０代では、「情報が入らない」、３０代では、「近くに活動がない」、４０代では、「自分に合った活動がない」、５０代では、「健康でない」、６０代では、「自分に合った活動がない」「健康でない」、７０代では、「健康でない」、８０代では、「一緒に活動する人がいない」が回答の上位であった。

「真の居場所」が「家庭・家族」であったとしても、その家族・家庭が身近な生活圏域としての地域の居場所をいかに求めていくべきかについては、長寿者等の孤立防止の取り組みからしても、生活圏域全体の課題として、一人ひとりの意識改革をもとに「お金を掛けない居場所」「常に地域に発信できる生活情報の開拓」「健康予防を重視した居場所の提供」「顔の見える環境づくり」等、課題解決に取り組むことが求められてくる。

（４）周辺の自治会等の「コミュニティ」についての考察

家族の周辺の自治会等の「コミュニティ」についての考えを全体の回答結果からみると、「潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている」４９．３％と回答しているが、「よくわからない」31.1%も多い。　また、「生活を営む上で必要は感じていない」10.5%の回答もある。

１０代、２０代では、「わからない」次に「生活を営む上で必要は感じていない」３０代では、「わからない」が一番多いが「必要を感じる」と「必要性を感じない」が交差している。　４０代から５０代では、「必要性が薄れている」が浮き彫りになっているが、６０代、７０代では、「必要性」を強く回答しているが、８０代になると再び必要性を否定した回答になっている。

	回答数	百分比	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	総計
潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている	780	49.3%	15.3%	6.8%	11.3%	11.3%	12.2%	26.7%	13.8%	2.7%	100.0%

生活を営む上で必要は感じていない	166	10.5%	30.7%	12.7%	11.4%	8.4%	12.7%	16.3%	7.2%	0.6%	100.0%
今後、ますますその役割は薄れてくる	150	9.5%	16.0%	10.7%	11.3%	15.3%	16.0%	18.0%	8.7%	4.0%	100.0%
よくわからない	391	24.7%	31.1%	14.4%	17.0%	13.6%	8.5%	9.3%	5.1%	1.0%	100.0%
その他	15	0.9%	13.3%	6.7%	20.0%	13.3%	13.3%	33.3%			100.0%
(空白)	81	5.1%	7.4%	8.6%	6.2%	4.9%	8.6%	34.6%	18.5%	11.1%	100.0%
合　計	1,583	100.0%	20.4%	9.7%	12.5%	11.6%	11.5%	20.9%	10.6%	2.6%	100.0%

（５）家族が親しく付き合っている人は「近所の人」が５３，４％と半数 意外と少ない「親戚関係の人」１０．９％

居住年数別の付き合いの実態ともいうべき回答は、１年未満は、「近所の人」「同級生・先輩・PTA」「職場関係の人」、２年未満では「近所の人」「親戚関係の人」「いない」、３年未満では、「近所の人」「親戚関係の人」「職場関係の人」、５年未満では、「近所の人」「親戚関係の人」「同級生・先輩・PTA」、１０年未満では「近所の人」「親戚関係の人」「同級生・先輩・PTA」、１５年未満では、「近所の人」「職場関係の人」「同級生・先輩・PTA」、２０年未満では、「近所の人」「親戚関係の人」「同級生・先輩・PTA」、３０年未満では、「近所の人」「親戚関係の人」「趣味・スポーツ関係の人」、３０年以上では、「近所の人」「地域活動関係の人」「親戚関係の人」と居住年数で、近隣の付き合いの層が微妙に変わっているが、いずれにしても、一番多い付き合いは、「近所の人」は共通である。

	回答数	百分比	１年未満	２年未満	３年未満	５年未満	１０年未満	１５年未満	２０年未満	３０年未満	３０年以上
職場関係の人	115	7.3%	9.0%	7.7%	10.3%	8.0%	11.9%	13.0%	8.8%	5.1%	4.9%
近所の人	816	51.5%	59.0%	35.9%	41.4%	30.0%	40.6%	45.9%	52.8%	56.7%	54.3%
親戚関係の人	166	10.5%	3.8%	17.9%	10.3%	18.0%	15.8%	9.6%	12.7%	9.8%	9.2%
同級生・先輩・PTA	130	8.2%	11.5%	7.7%	6.9%	14.0%	12.9%	10.3%	9.9%	7.0%	5.7%
趣味・スポーツ関係の人	76	4.9%	2.6%	7.7%	0.0%	2.0%	1.0%	6.2%	3.9%	7.9%	5.1%
地域活動関係の人	120	7.6%	1.3%	0.0%	3.4%	2.0%	5.9%	7.5%	4.6%	5.1%	11.9%
その他の地域の人	33	2.1%	3.8%	2.6%	6.9%	6.0%	0.0%	1.4%	1.8%	0.5%	2.4%
その他	15	0.9%	2.6%	7.7%	6.9%	4.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.9%	0.3%
いない	56	3.5%	3.8%	10.3%	13.8%	10.0%	7.9%	4.1%	1.8%	4.2%	1.9%
（空白）	56	3.5%	2.6%	2.6%	0.0%	6.0%	4.0%	0.7%	3.9%	2.8%	4.4%

合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（６）今、住んでいる地域での将来の暮らしに「不安を感じる」４９．５％「あまり感じない」４１．３％と,やや不安を感じる回答が上回っている

全体の回答からは、「大いに感じる」１１．１％、「少し感じる」３６．９％を合わせると、４８％が
現在住んでいる地域に不安を感じると回答している。
「あまり感じない」４０．１％、「まったく感じない」８．９％で、不安を感じないとの回答は４９％
と、ほぼ半々の回答状態である。
居住地域への不安に関して、ここでは、居住形態別に「不安を感じる」の回答傾向をみると、持家
は４８．３％、借家では４６．５％、社宅・官舎は４８％の結果である。
持家の方が僅かながら不安要素を伺わせている。

	回答数	百分比	持ち家	借家	社宅・官舎	その他	総計
大いに感じる	175	11.1%	10.7%	11.1%	16.0%	20.7%	11.1%
少し感じる	584	36.9%	37.6%	35.4%	32.0%	24.1%	36.9%
あまり感じない	634	40.1%	39.8%	42.0%	32.0%	51.7%	40.１%
まったく感じない	141	8.9%	8.8%	9.3%	12.0%	0.0%	8.９%
(空白)	49	3.0%	3.2%	2.2%	8.0%	3.4%	3.0%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（７）「地域ぐるみで見守りする活動」を８２％が必要性を感じている

家族として、生活圏域の地域社会に地域ぐるみの守り活動の必要を問いただしたところ、全体の回答結果では、「取り組みの必要性を感じる」は８２％。
消極的な回答は１４％。　　わからないの回答が７．３％あった。
これを居住年数別にみると、１年未満では、６５．４％、２年未満では、７７．４％、３年未満は、６９％、５年未満　８６％と居住年数が長くなるほど高い回答である。

１０年未満になると７６．３％、１５年未満は７４％と若干その必要性の割合が下がるが、２０年未満は７６．４％、３０年未満は８３．７％、３０年以上では、８９．６％と、更に、居住歴年数が長いほど、「地域ぐるみの見守り活動に期待する傾向が伺える。

１年から３年未満の居住年数の回答者は、必要性がわからないと回答している割合が多いが、居住年数が３０年を過ぎるとその意義を理解している。

	回答数	百分比	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	30年未満	30年以上	総計
お互いに支え合う必要性を感じる	609	38.5%	33.3%	38.5%	20.7%	34.0%	33.7%	31.5%	34.5%	35.3%	45.1%	38.5%
ある程度地域住民が取り組むことは大切と思う	690	43.5%	32.1%	35.9%	48.3%	52.0%	42.6%	42.5%	41.9%	48.4%	44.5%	43.5%
どちらかというと消極的である	80	5.1%	5.1%	10.3%	6.9%	0.0%	5.9%	9.6%	5.6%	6.5%	3.2%	5.1%
ほとんど必要性を感じない	30	1.9%	9.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.0%	2.1%	2.5%	1.9%	0.9%	1.9%
わからない	116	7.3%	16.7%	12.8%	24.1%	4.0%	10.9%	11.6%	12.3%	5.6%	2.2%	7.3%
（空白）	58	3.7%	3.8%	2.6%	0.0%	8.0%	5.0%	2.7%	3.2%	2.3%	4.1%	3.7%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

５．望ましい、これからの家庭・家族とご近所福祉と長寿者の存在

ここでは「長寿者」を取り巻く家族と生活圏域のご近所のあり方を、次の８項目をもとに考察をした。

（１）設問 19　家族が、時々気軽に出かけることが出来る地域の居場所はあるか
（２）設問 20　家族は、3.11 震災後に、地域の支え合い・見守り活動等、地域ぐるみの取り組みについて話題を持ったか
（３）設問 21　引っ越しなどの時に、ご近所のあいさつ回りをしているか
（４）設問 22　家族は、隣近所の方との会話はあるか
（５）設問 23　地域は「一人でも安心して暮らせる地域である」と思うか
（６）設問 24　「地域ぐるみで見守り活動」をする支援体制が整っているか
（７）設問 25　家族が地区住民と共に集まり、ひと時を過ごす機会をもとことがあるか
（８）設問 26　ご近所が集まる具体手粉場所はどこか

（１）家族が、時々気軽に出かけることが出来る地域の居場所は商店・コンビニが第１位、次に友人宅、第３位は公民館

	回答数	百分比	中高校生	短専大学生	会社員	公務員	自営業	団体職員	自由業	主　婦	パート	無 職	その他
公民館	180	11.4%	2.8%	12.8%	9.5%	1.1%	5.0%	6.7%	0.6%	27.4%	7.3%	22.3%	4.5%
公会堂	84	5.3%	3.8%	11.3%	15.0%	12.5%	8.8%	8.8%		21.3%	2.5%	15.0%	1.3%
集会所	61	3.９%		13.1%	19.7%	1.6%	3.3%	4.9%		24.6%	13.1%	13.1%	6.6%
企業開放した施設	30	1.9%	3.4%	31.0%	13.8%	6.9%		6.9%		20.7%	10.3%	6.9%	
個人宅解放の場所	18	1.1%	5.6%	5.6%	11.1%	11.1%	11.1%	5.6%		11.1%	5.6%	22.2%	11.1%
神社	32	2.0%	3.1%	28.1%	9.4%	9.4%	3.1%	15.6%		15.6%	6.3%	9.4%	

お寺	24	1.5%		12.5%	12.5%		4.2%	12.5%		29.2%	8.3%	16.7%	4.2%
教会	12	0.7%						30.0%		30.0%		30.0%	10.0%
コミュニテイC	62	3.9%		10.0%	8.3%	3.3%	10.0%	6.7%	1.7%	26.7%	6.7%	25.0%	1.7%
商店・コンビニ	367	23.2%	17.0%	26.6%	19.2%	3.0%	0.8%	9.1%		9.6%	8.8%	4.9%	0.8%
親戚宅	139	8.8%	5.1%	13.8%	23.9%	4.3%	2.9%	10.9%		12.3%	14.5%	10.1%	2.2%
隣近所	124	7.8%	5.0%	12.5%	13.3%	1.7%	7.5%	10.0%	1.7%	15.0%	12.5%	18.3%	2.5%
友人宅	182	11.5%	6.1%	14.5%	10.1%	3.9%	6.1%	14.0%		21.8%	11.7%	8.4%	3.4%
ない	54	3.4%	9.3%	29.6%	11.1%	5.6%		11.1%		22.2%	7.4%	1.9%	1.9%
その他	48	3.0%	8.5%	12.8%	10.6%		4.3%	17.0%		21.3%	6.4%	10.6%	8.5%
ない	107	6.8%	5.6%	21.5%	15.9%	2.8%	0.9%	11.2%		15.9%	9.3%	12.1%	4.7%
(空白)	59	3.8%	5.3%	5.3%	14.0%	1.8%	3.5%	8.8%		14.0%	12.3%	28.1%	7.0%
合　計	1,583	100.0%	7.4%	17.5%	14.8%	3.5%	3.8%	10.0%	0.3%	17.7%	9.4%	12.5%	3.0%

全体的な回答結果から、家族が、時々気軽に出かけることが出来る地域の居場所で回答の多い順にあげると①商店・コンビニ　②友人宅　③公民館　④親戚　⑤隣近所　⑥公会堂　⑦集会場　⑧コミュニティセンター　となっている。　回答の中に「出かけるところなし」５４名（３．４％）
がある。
各職種により、その居場所に特徴があるかを考察した結果は、次のとおりである。

① 中学・高校生　「商店・コンビニ」「友人宅」「個人宅解放の場所」
※「特になし」9．3％、「コミュニティセンター」0％、「公民館」2．8％
② 短大専門校・大学生　「企業が開放した施設」「神社」「商店・コンビニ」
※「特になし」29．6％、「コミュニティセンター」0％、「公民館」2．8％
③ 会社員　「親戚宅」「集会所」「商店・コンビニ」
④ 団体職員　「教会」「神社」「友人宅」
⑤ 主　婦　「教会」「お寺」「公民館」「コミュニティセンター」「集会所」
⑥ パート・フリーター　「親戚宅」「集会所」「隣近所」「友人宅」
⑦ 無 職　「教会」「コミュニティセンター」「公民館」「個人宅開放の場所」「隣近所」「お寺」「公会堂」
⑧ 公務員　「公会堂」「個人宅開放の場所」「神社」
⑨ 自営業　「個人宅開放の場所」「コミュニティセンター」
⑩ 自由業　「特になし」

（２）家族は、3.11 震災後に、地域の支え合い・見守り活動等、地域ぐるみの取り組みについて具体的な話し合いを持った　２０％　　まったくもたなかった　１２％

尊い教訓を私たちに与えた東日本震災。　これからの家族・家庭を考えていく意味から、２年を経

過した今、これからの地域と家族・家庭をどれほど話題にしたかの全体の回答結果では、具体的な話し合いの場を持ったは１９．５％、少しはあったは６６％。　まったくなかったは１１．７％。
　家族構成別では、具体的な話し合いの場を持ったかの多かった領域は、「夫婦」「大家族」「親子」の順であった。　本調査では、さらに日常的に「一人でも安心して暮らせる地域づくり」と関連付けた課題として課題提起をしていきたい項目でもある。

	回答数	百分比	大家族	親子	夫婦	一人暮らし	一人未婚	その他	総計
具体的な話し合いの場を持った	308	19.5%	19.1%	19.0%	23.2%	20.0%	13.0%	21.6%	19.5%
少しはあった	1,044	66.0%	69.3%	65.2%	66.9%	53.3%	63.0%	59.5%	66.0%
全くなかった	186	11.7%	8.4%	13.2%	9.4%	10.0%	20.7%	18.9%	11.7%
(空白)	45	2.8%	3.2%	2.7%	0.4%	16.7%	3.3%	0.0%	2.8%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（３）地域で、引っ越しなどの時に、あいさつ回りをほとんどしている　５０．２％

日常的な信頼関係について、その入り口ともいえる、生活圏域での出会いに関したこの質問項目の全体回答結果は,あいさつ回りを「ほとんどしている」４９．１％。　「したりしなかったり」２８．４％。　全体的には７７．５％の人が、生活圏域の仕来りに従っている。
　わからない　１４．２％は、今後さらに見えない領域となっていくようにも感じる。

	回答数	百分比	街区	新興住宅地	農村部	山間部	その他	総計
ほとんどしている	777	49.1%	44.5%	49.2%	53.7%	45.1%	52.9%	49.1%
したりしなかったりである	450	28.4%	32.9%	30.5%	22.9%	29.5%	23.5%	28.4%
していない	96	6.1%	8.9%	5.4%	3.5%	9.0%	4.4%	6.1%
わからない	224	14.2%	11.6%	12.5%	17.2%	13.9%	17.6%	14.2%
(空白)	36	2.2%	2.1%	2.4%	2.6%	2.5%	1.5%	2.2%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（４）家族は、隣近所の方との会話

全体の回答結果では、良く会話や挨拶をする実態は５４．８％。　挨拶をする程度は４０．６％。
　話はしない２．２％、誰がいるかわからない回答が０．８％あった。

　居住年数別で回答をみると、２年から１５年未満までは積極的な会話や挨拶には発展していないように伺える。　１５年を経過するとご近所との関係が生じているようにも感じるが、挨拶程度は希薄

に感じる一面がある。１年から５年程度は挨拶もしない状況が伺える。
１年から３年未満の居住世帯からの回答では、誰が住んでいるかわからない回答が多く感じ、あえて生活圏域における関係づくりに関心を持たない領域とも受け止められる。

	回答数	百分比	１年未満	２年未満	３年未満	５年未満	１０年未満	１５年未満	２０年未満	３０年未満	３０年以上
よくする	867	54.8%	47.4%	33.3%	34.5%	26.0%	39.6%	39.7%	45.1%	54.0%	70.6%
挨拶をする程度	642	40.6%	38.5%	59.0%	51.7%	64.0%	53.5%	54.8%	48.6%	41.9%	28.0%
話はしない	35	2.2%	6.4%	5.1%	3.4%	6.0%	4.0%	3.4%	4.2%	1.4%	0.0%
誰が住んでいるかもわからない	13	0.8%	2.6%	2.6%	10.3%	0.0%	1.0%	0.7%	0.0%	1.4%	0.3%
（空白）	26	1.6%	5.1%	0.0%	0.0%	4.0%	2.0%	1.4%	2.1%	1.4%	
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

（５）近隣地域は「一人でも安心して暮らせる地域である」地域

一人でも安心して暮らせる地域と感じている回答は６８．９％。
マイナス志向の回答が２３％伺え。

	回答数	百分比
強くそう思っている	196	12.4%
少しはそう思っている	896	56.5%
あまりそう思ってはいない	321	20.3%
まったくそう思ってはいない	42	2.7%
わからない	96	6.1%
(空白)	32	2.0%
合　計	1,583	100.0%

（６）「地域ぐるみで見守り活動」をする支援体制のある地域であると意識している回答が５３．６％　　しかし、２０％がマイナス志向。

前項目に関連した設問として「意識」に対して「実態」を問い正した結果である。
類似した結果が伺える。　支援体制はあるの回答が５３．６％である反面、消極的な見方が２２，４％結果として回答されている。
居住年数別に地域の見守り支援体制の存在をどう見ているかの回答結果をみると、居住年数が長がくなれば、安心度合からの評価の高さが伺える。　しかしながら、３０年以上になるとやや厳しい回答になっている。

	回答数	百分比	１年未満	２年未満	３年未満	５年未満	10年未満	15年未満	20年未満	30年未満	30年以上
地域が一体となって積極的に取り組んでいる	165	10.7%	11.5%	7.7%	6.9%	6.0%	7.9%	8.2%	9.2%	8.8%	13.0%
ある程度地域住民が取り組んでいる	660	42.9%	25.6%	35.9%	31.0%	38.0%	31.7%	40.4%	44.0%	36.3%	47.3%
どちらかというと消極的な取組みである	210	13.6%	11.5%	15.4%	13.8%	14.0%	14.9%	11.6%	11.3%	13.5%	14.4%
ほとんど活動はしていない	136	8.8%	9.0%	5.1%	13.8%	4.0%	8.9%	10.3%	4.9%	8.8%	10.0%
わからない	368	23.9%	38.5%	35.9%	34.5%	34.0%	31.7%	26.0%	27.5%	31.2%	12.8%
			3.8%	0.0%	0.0%	4.0%	5.0%	3.4%	3.2%	1.4%	2.5%
合　計	1,539	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（７）家族が、地区住民と共に集まり、ひと時を過ごす機会

「ある」の回答は４８．８％　「ない」は、２８．３％　「わからない」は２０．７％
地域形態別では、「街区」は、「新興住宅地」「農村部」「山間地」よりは共有の居場所への意識が薄い。また、共有の居場所がわからないとの回答が「街区」に伺える。

	回答数	百分比	街 区	新興住宅地	農村部	山間部	その他	総計
ある	773	48.8%	41.3%	45.1%	59.2%	51.6%	48.5%	48.8%
ない	448	28.3%	35.4%	31.1%	18.1%	27.0%	33.8%	28.3%
わからない	327	20.7%	21.9%	20.5%	20.3%	19.7%	16.2%	20.7%
(空白)	35	2.2%	1.4%	3.2%	2.4%	1.6%	1.5%	2.2%
合　計	1,583	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（８）地域住民と過ごす機会は「お祭り」が５１．９％と半数を占める

全体の回答で集まる機会は、「お祭り」５１．９％、次に「食事会・お茶会」２２．９％、そして「趣味仲間の集まり」１０．１％。　県内地域別の動きをみると、「お祭り」は「県西部」が盛んで３５％「県東部」が２６．６％、「県中部」１９．７％。
「食事会・お茶会」は、「県東部」で１３．４％、「県西部」は１２。２％、「県中部」は９．６％。
「いこいの広場」は各地域同じ割合。　「趣味仲間の集まり」は、若干「県西部」の割合が多い。
「地域学習の場」では、「県東部」の割合が多い。　「コミュニテイカフェ」の動きは微少。

	回答数	百分比	県東部	県中部	県西部	静岡県外	総計
食事会・お茶会	177	22.9%	13.4%	9.6%	12.2%	5.3%	11.1%
お祭り	402	51.9%	26.6%	19.7%	35.4%	26.3%	25.4%
コミュニテイカフエ	9	1.2%	0.3%	0.6%	0.8%	0.0%	0.6%
いこいの広場（語らいの広場）	35	4.5%	2.6%	2.1%	2.3%	0.0%	2.2%
趣味仲間の集まり	78	10.1%	4.9%	4.4%	6.4%	0.0%	4.9%
地域学習の場	27	3.5%	2.1%	1.5%	1.8%	0.0%	1.7%
その他	45	5.9%	50.1%	62.0%	41.2%	68.4%	54.0%
合　計	773	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

地域にある共有の居場所を年代別にはどのような動きがあるかの実態の回答結果では、１０代から５０代までは「お祭り」「食事会・お茶会」の順で変わりはないが、その割合が縮まり、６０代からは「趣味仲間の集まり」に移行し「地域学習の場」「いこいの広場（語らいの広場）」「コミュニティカフェ」の領域に広がりつつある結果となっている。　日常生活における生活圏域での居場所がこの項目からも求められていることが伺える。

１０代・・・・・　①　お祭り　　１９．８％
　　②　食事会・お茶会　　６．５％
２０代・・・・・　①　お祭り　　１８．８％
　　②　食事会・お茶会　　５．２％
３０代・・・・・①　お祭り　　３２．３％
　　②　食事会・お茶会　　８．１％
４０代・・・・・①　お祭り　　２７．２％
　　②　食事会・お茶会　　６．５％
５０代・・・・・①　お祭り　　２７．５％
　　②　食事会・お茶会　　１３．７％
６０代・・・・・①　お祭り　　２８．４％
　　②　食事会・お茶会　　１６．６％
　　③　趣味仲間の集まり　　８．２％
７０代・・・・・①　お祭り　　２５．６％
　　②　食事会・お茶会　　１９．６％
　　③　趣味仲間の集まり　　１３．７％
８０代・・・・・①　趣味仲間の集まり　　１９．０％
　　②　お祭り　　１９．０％
　　③　食事会・お茶会　　１６．７％

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	総計
食事会・お茶会	6.5%	5.2%	8.1%	6.5%	13.7%	16.6%	19.6%	16.7%	11.2%

お祭り	19.8%	18.8%	32.3%	27.2%	27.5%	28.4%	25.6%	19.0%	25.4%
コミュニティカフェ			0.5%	0.5%		0.9%	1.8%	2.4%	0.6%
いこいの広場（語らいの広場）	1.9%		3.0%	1.1%	2.2%	2.1%	4.8%	4.8%	2.2%
趣味仲間の集まり		3.2%		3.3%	4.9%	8.2%	13.7%	19.0%	4.9%
地域学習の場	0.3%	0.6%	0.5%	2.2%	1.6%	3.0%	2.4%	7.1%	1.7%
その他	0.6%	4.5%	3.0%	4.3%	4.4%	2.7%	2.4%	4.8%	2.9%
(空白)	70.9%	67.5%	52.5%	54.9%	45.6%	38.1%	29.8%	26.2%	51.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

第４章　調査のまとめ

１.「福祉文化研究調査」としてのプロセス

本会は、これまで、平成２０年度から今年度まで、通算５年間にわたり、単年度の委託事業として「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組んできた。

委託事業は、一貫して、大きく「３つの柱立て」を組み立てて展開をしてきた。

今年度の事業を振り返って見ると、第一の柱立ては、「長寿者」「ご近所」「共生社会実現」「居場所」を学習テーマに「公開型研修会」（５回）として「啓発学習事業」に取り組んだ。

第二の柱立ては、地域の実践活動としての「モデル地区実践活動事業」である。

今年度は、継続地域として「西伊豆町」「富士宮市」「沼津市」にサポートをお願いし、新たに、「熱海市上多賀地区」「牧之原市」「掛川市中方地区の３地域に、それぞれの地域特性をもとに、実践活動に取り組んでいただいた。

そして、第三の柱立てが、「調査研究事業」の展開である。

本会では、本会結成以来、１７年間「静岡発　福祉文化の創造」を目指す実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く、様々な福祉問題を基に、世代を超えた県民の意識と実態を把握する目的で「調査研究活動」に取り組み「理論と実践の融合」を試み、地域社会の課題を整理し、広く県民に問題提起をしてきた。

本会１７年間の歩みを振り返ってみると、平成９年度は「共働きに関する調査」、平成１０年度は「地域とはなにかに関する調査」、平成１１年度は「家族とは何か関する調査」、平成１２年度は「父親に関する調査」、平成１３年度は「ボランティア活動実践者意識調査」、平成１４年度は「大人を対象とした生きがいと就労に関する調査」、平成１５年度は「青少年の生きがいに関する調査」、平成１６年度は「地域とは何か―その２－に関する調査」、平成１７年度～平成１８年度の２か年間は「子どもと社会環境に関する調査」を継続的に実施、平成１９年度は「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」に取り組んできた。平成２０年度に県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組み、これまで、本会では、直接「長寿者」に関する調査研究活動には取り組んでこなかったことから、集中的に「長寿者問題」に取り組むこととした。

平成２０年度は「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」と「日常生活と福祉情報に関する調査」（県共同募金会助成事業）、そして、平成２１年度は「長寿社会に関する県民意識と実態調査」、平成２２年度は、「今こそ、地域社会に福祉文化を拓く、生活圏域における支え合いとはなにか、本音に迫る調査」平成２３年度は「地域と私の居場所　その意

識と実態調査」そして、今年度は「今、あらためて“家族の実像”に迫る　私にとって家族ってなに？　意識と実態調査」と、継続した調査を実施することが出来た。

特に、この５年間は、「長寿者（高齢者）」の家庭・家族や地域社会からの孤立・孤独防止の取り組みとして「静岡県委託事業／一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組む機会をいただき、集中的に、調査研究事業を展開し、県内各市町に「福祉文化の創造と調査研究活動の実践」を課題提起をすることが出来た。

この５年間の調査研究活動を原点から振り返って見ると、まず、「長寿者の生きがい」を「長寿者の自立」と置き換え、次に、「長寿社会の意識〕を「地域社会における共助」につなぎ、そして「生活圏域の支え合い」を「互助」と置き換えて検証することとした。

「長寿者」がいかにして、「生活圏域」孤立・孤独状態になることなく生活をすることが出来るかを明らかにするとともに、支え合いの出来る生活圏域にするためには、どのようなことが求められるか、また大切かを検証してきた。

これまでの４年間の調査研究活動をもう一度、原点に戻って検証すべき論議を、今年度の事業を展開するにあたって繰り返し行われた。

こうした問題解決を、「長寿者」に押し付けたり、また「地域社会」に委ねるだけではなく、長寿者の真の居場所である「家庭・家族」に問うことはどうかという議論が続き、本会が平成１１年度に取り組んだ「家族ってなに？」を再び県民に問うこととした。

１３年前に本会が取り組んだ「家族ってなに？意識と実態調査」を改めて問うこととした。あの時代の「家族」を社会的課題にしたのは、社会全体を問いたが、今回は、「長寿者の居場所」を意識しながらも、家族一人ひとりが豊かに暮らすための「家庭機能」を問題提起をしていこうとした。

家庭機能自体がその機能を失い、家族さえも個人志向の生活にシフトが変わり、家族でさえもつながる生活ができにくくなってきた今日、改めて「家庭機能を見直し」「家族のつながり（絆）」をいかに取り戻すか」を「長寿者の孤立防止」と関連して問題提起をしようと試みた。

「静岡福祉文化を考える会」における「調査研究事業」は、その原点を「市民レベル」として徹底をしてきた。　　つまり、「本会独自の調査の発想」は、まず、「市民主体であること」、そして「手づくりの調査票」「市民レベルのデーター分析」と、一連の取り組みに大きな意義と特色をもたせてきた。

平成２０年度に取り組んだ「長寿者の生きがい調査」の課題整理により、調査の見直しを始めた結果、平成２１年度においては、「地域社会全体の地域ニーズの発見」が試みられた。

そして、もっと、身近な生活環境の中で問題解決をすべく、平成２２年度は「生活圏域の支え合い」につなげた。　　さらには、「地域の居場所」をいかに市民一人一人が持つことが必要かを問い続けた。　　今年度は、「真の居場所こそ家庭・家族」ではないか、これまでのプロセスから、具体的な調査研究活動が展開された。

会員による入力作業と調査協力者の参画による分析作業は、静岡県委託事業に位置付けた「公開型研修会」において、調査研究活動の組み立てに取り組んだ。

今年度は、若者の地域参加の機会与えようと、機会あるごとに「青年層」の参加により「調査個票づくり」や「結果分析」等に熱心に参画をしていただいた。

こうした、「プロセス重視」をもとに、このたびの結果をまとめることとしたい。

２．生活者にとって“家族・家庭とは”日頃から挨拶を交わし、健康上の相談が出来、「休息・安らぎ」「家族の団らんの場」としての環境を保有し、家事手伝いが出来る生活環境があること

＊「家族を大切にしている」は、夫婦世帯、大家族、親子世帯の順であるが、未婚の単身世帯では意識が薄い。　　「大切にしていない」は全体では１，３％

＊家庭環境をマイナス志向で回答している割合は１７％。
中でも、「親子世帯」が１１．３％、次に「大家族世帯」７％、夫婦世帯３．８％で家族構成が多いと言ってプラス志向とは限らない。

＊「家庭とは何か」は「休息・安らぎ」３８％、「家族の団らんの場」３０．３％
「親子がともに成長する場」１２．８％、「家族の絆を強める場」９．７％と回答あり。
大家族では「団らん」、親子、夫婦、未婚単身は「休息・安らぎ」が大半の回答。

＊家族と食事をとらない傾向は、「山間地域」１６．７％、「新興住宅地域」７．５％

＊子どもとの同居は、「わからない」が２３％。

＊家事の取り組みは「たまに、ほとんどやらない」で約２割と多い。
「食事準備」「室内掃除」「洗濯干し・取入れ」「食器洗い」「風呂掃除」「買い物」「屋外掃除」「トイレ掃除」の順に多い。

＊家族を一番必要とするときは「健康に不安を感じた時」「身辺の相談」「生活の不安」「報告したいとき」「経済的な問題」

＊家族との挨拶は、約９割は「する」の回答

３．長寿者は、家族の相談に応じ支え手となり、生活者としては、のんびりと趣味を楽しむ生活環境を創ることが出来る

＊長寿者とは、「家族の相談相手」「家族を支え手」「まとめ役」
＊老後の生活は、「のんびりと過ごす」「趣味を楽しむ」が大半。

４．家族と地域社会とは、日々の生活の中でふれあい交流し合う環境醸成とともに、地域ぐるみの見守り活動のあり方を考え,実践できる地域づくりを心掛ける。

＊地域行事への参加は「参加する」８３．４％と多く、「本人」が３１％、「家族そろって」１４．１％、「母」１１％、「両親」８．７％、「父」６．９％、「祖父母」６％。「不参加」１３．９％ある。
＊地域行事に参加しない原因は「時間がない」３２．６％、「参加したいと思わない」１１．３％、「参加のきっかけがない」１０．４％、「情報が入らない」１０．４％、「興味がわかない」８．３％、「近くに活動がない」６．１％。
＊コミュニティの考え方は「重要な役割」４９．３％と回答が多いものの、反面「よくわからない」２４．７％、「必要を感じない」１０．５％、「ますます必要性が薄れてくる」９．５％と、消極的かつマイナス志向の回答が４７．１％に達している。
今後、さらにコミュニティ意識の希薄化に拍車がかかってくると予測される。
＊親しく付き合っている人は意識では、「近所の人」５１．５％である。
「親戚関係」１０．５％、「先輩、同級生」８．２％、「職場関係」７．３％の回答順。
＊将来への不安に対しては「大いに感じる」１１．１％、「感じる」３６．９％を合わせると４８％、また、「あまり感じない」４０．１％、「まったく感じない」８．９％を合わせると４９％と、感じる意識と感じない意識がほぼ同数の意識結果となっている。
＊「地域ぐるみでの見守りする活動」の必要性については、「必要性を感じる」意見は８２％、「必要性を感じない」という消極的な意見は、７％、「わからない」は７．３％で、これからの地域のあり方については、家族単位の意識結果からは、「見守り活動」の必要性を強調している。　　「わからない」という意見に対しては、今日的な地域

社会の動きを日々の生活から感じ取る働きかけの課題がある。

５．長寿者を中心とした安心して暮らせる地域づくりは、尊い震災を教訓に，家族・家庭機能の見直しと共に、生活圏域のご近所が、日々の生活から，いかにして「地域の居場所」に心がけて、支え合いの環境を創り、その機能を強めていくかに努力していくこと

＊地域の居場所は、回答の多い順では「商店・コンビニ」２３．２％、「友人宅」１１．５％、「公民館」１１．４％、「親戚宅」８．８％、「隣近所」７．８％等が挙げられている。　ここで、注目したいのは「公民館」である。　　これからのコミュニテイづくりにむけ、県民の思いが、真の姿として、公民館の機能はいかにあるべきかである。
「ない」３．４％の意見は、現実的な課題提起をしている。

＊３．１１後に地域ぐるみの支え合いを話題にしたかについては、「「少しはあった」６６％、「具体的にした」１９．５％と回答されている。
「まったく無かった」は１１．７％であった。　尊い教訓を風化させないためにも、日々の生活のあり方を見直すことを提起できる。

＊本題でもある「近隣地域は、“一人でも安心して暮らせる地域”」かの回答結果では、６８．８％は「そう思う」の回答であるが、２３％は否定的な回答である。
さらに、具体的な「支援体制」の回答結果では、「整っている」５３．６％に対して、不十分さの回答が２２．４％ある。

＊日頃の地域生活におけるコミュニケ―ションは、８割から９割できている状況が回答結果から伺えるが、生活圏域での交流の機会は半数で、その半数がほぼ「お祭り」で占めている。　しかし、加齢化と共に「趣味仲間の集まり」「食事会・お茶会」の領域に移行。　　生活圏域で、安心して暮らせる地域であるかに対しては、約７割は「安心できる」と回答しているが、「生活圏域での不安」を３割感じていると回答している。
前述の社会全体の意識とは、若干異なる回答結果である。

平成２４年度
静岡県委託事業／一人でも安心して暮らせる地域づくり事業

今、あらためて、　“家族の実像”に迫る

私にとって、家族ってなに？意識と実態調査報告書

発　行　静岡福祉文化を考える会
〒420-0841　静岡市葵区上足洗３丁目７－１５－５
℡&fax０５４－２４６－１４８６
発行日　平成２５年３月３１日
印刷所　大日紙業株式会社

Ｈ２５．３．３１　４００部